

漁船漁業の現状と将来

瀬底 正 武

本県の水産業は、各種の条件整備が進み、バヤオ漁業、ソデイカ漁業の進展、養殖漁業（モズク、クルマエビ等）、栽培漁業の展開等明るい展望が見られるものの、沿岸漁業の柱である漁船漁業は復帰後、県外から漁具漁法の導入又はその改良によって今日に至っているが、ソデイカ漁業の定着以降、新たな漁具漁法の導入又は改良の頻度は疎い状況にある。一方本県の水産業を取り巻く状況は、漁業資源の減少、漁業就業者の高齢化と後継者不足、赤土等による漁場汚染、輸入水産物の増加による魚価の低迷、海洋レジャーとの漁場競合等多くの問題を抱えている。このような状況に対応し、「漁船漁業の現状と将来」について、それぞれのパネリストの立場で、意見を述べてもらうとともに、フロアーの皆さんと意見交換しあい、21世紀は足腰の強い新しい水産業を築かれんことを願っている。

1. 現状報告

「沖縄県水産業の現状」

新里 勝也 沖縄県農林水産部漁政課
漁政課企画係長

2. コーディネーター

知念 良廣 沖縄県漁業協同組合連合会
参事

【経 歴】

昭和25年 国頭村に生まれる
昭和48年 千葉商科大学商経学部商学科卒業
昭和48年 国頭漁業協同組合参事
昭和54年 (財) 沖縄県漁業振興基金
平成2年 同業務課長
平成7年 同事務局長

平成11年 沖縄県漁業協同組合連合会参事
平成11年 沖縄県漁業振興基金事務局長委嘱
(兼務) 現在に至る。

3. パネリスト

金城 宏 糸満漁業協同組合
代表理事組合長
比嘉 行三 沖縄県指導漁業士
国頭漁業協同組合所属
比嘉 康雅 沖縄県指導漁業士
八重山漁業協同組合所属

4. パネリストの意見等集約

「漁船漁業の現状と将来」をテーマに平成13年10月15日、沖縄県水産会館で開催された。漁業資源の減少、漁場汚染等の問題を受けたシンポジウムでは、パネリストから「一定の禁漁期間を設ける等の漁業資源管理が必要だ・赤土汚染などの環境対策を実施すべきだ・離島からの輸送手数料の軽減を」等の意見が出された。

シンポジウムは、「沖縄県水産業の現状」と題して、沖縄県農林水産部漁政課企画係長の新里勝也氏による現状報告の後、県漁連の知念良廣参事をコーディネーターに、パネルディスカッションが行われた。資源管理の重要性を訴えた金城組合長は、秋田県の資源回復例を紹介した。同県では1991年に漁獲量が70トンと低迷したハタハタについて、漁業者アンケートで3年間の禁漁を実施。同時に藻場の造成を進め、禁漁前の3倍の漁獲量を達成した。金城組合長は「漁業資源は祖先からの贈り物。後世へ資源を継がねば」と指摘した。

比嘉行三指導漁業士は、国頭漁協で1995年に2億8千万円の漁獲高を記録したソデイカが、

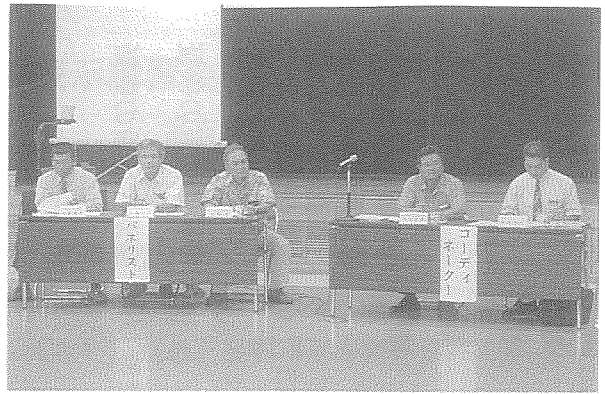
近年は2億円弱にとどまり、かつ価格が下降傾向にあると指摘した。「赤土流入による環境悪化が漁獲量減少の原因となっている」と漁場環境回復の必要性を説いた。

また、「漁船の大型化に伴う設備投資が、漁業者負担を招いている」とも話し、海産物価格の安定を求めた。

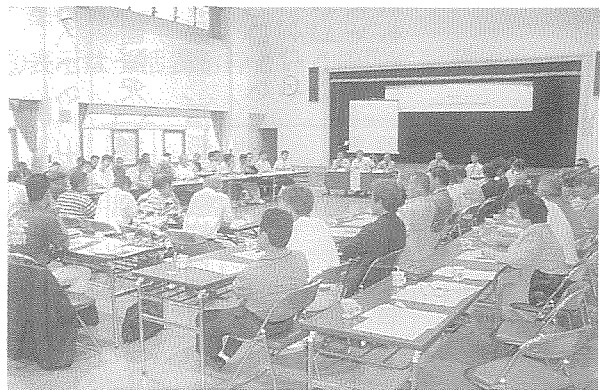
比嘉康雅指導漁業士は、開口一番、「台風で漁に出ても収入がない本当に厳しい状況だ」県漁連の競り市場への海産物輸送手数料の低減を求めた。また、県漁連や漁業団体と連携し、マチ類等の白身魚を長寿県沖縄のヘルシー食品としてPRする販売戦略を提案。

「今、水産が面白い。夢のある魚を」のキャッチフレーズに漁業者の視点から振興策を提案したいと話した。

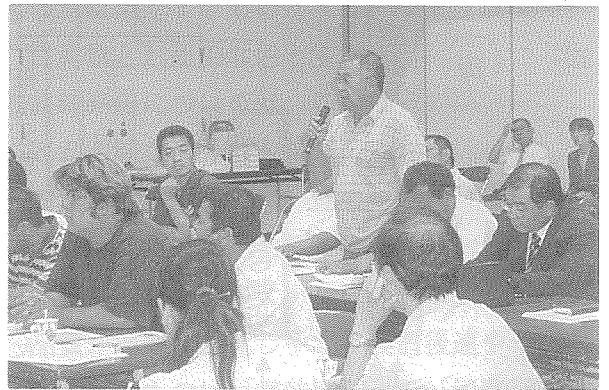
最後に、パネルディスカッションで現状報告された新里勝也さん、コーディネーターの知念良廣さん、パネリストの金城宏さん、比嘉行三さん、同じく比嘉康雅さんに対し心より感謝申し上げます。



「現状報告」を新里氏コーディネーターの知念氏パネリストの金城氏、比嘉行三氏、比嘉康雅氏（右から）



パネリストを囲んでのパネルディスカッションの様相



フロアーからも活発な意見が出された。

沖縄県水産業の概況

